

目的

小児期から成人期への移行期にある小児慢性疾病児童等への適切な医療の提供に関する課題を解消するため、小児期及び成人期をそれぞれ担当する医療従事者間の連携など支援体制の整備や、自身の疾病等の理解を深めるなどの自律（自立）支援の実施により、移行期医療支援体制の整備を目的とする。

対象

都内に在住する小児慢性特定疾病児童等

都の取組み

<東京都移行期医療支援センターに委託して実施>

* 数値は左：令和5年度実績、右：令和6年度実績

- 相談受付：移行期の児童・家族からの相談支援や、院内体制整備等の相談対応
【実績：19件、22件】
- 移行期医療ネットワーク連絡会：各医療機関の取組・ノウハウ等の共有、課題や対応策を検討・共有
【実績：2回、2回】
- 症例検討会：具体的な症例を踏まえて、成人移行支援に取り組みもうと考えている医療機関に情報を提供
【実績：3回、2回】
- 教育・研修（見学受け入れ）：移行支援プログラム導入するための支援を施設見学と合わせて実施
【実績：7件、5件】

<東京都（福祉局）が実施>

- 移行期医療支援推進会議の開催【令和6年3月】
- 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業交流会の実施【令和6年11月】
- 普及啓発
医療機関用、患児者保護者向けリーフレット及びチラシを児童相談所設置区を含めた都内全区市町村と連携し配布、「とうきょう子育てスイッチ」への掲載等
- 小児慢性特定疾病児童等の移行期医療受入可能医療機関検索システムの再構築及び公開（資料2-13）

<東京都（保健医療局）が実施>

- 東京都難病診療連携拠点病院等の指定（資料2-14）

